

知り合いによる強姦の捜査に成功するために：法執行機関のための国家トレーニング・マニュアル
開発：女性に対する暴力局¹及び司法局プログラムの協力を得て女性と警察に関する国民センターが開発した。

性暴力の加害者 その力学と面接技術

この教材は、部分的につぎの人が作成した資料に基づき開発された。

- ・ サンディエゴ警察署巡査部長ジョン・アーカムボルト
- ・ サンディエゴ警察署刑事ハロルド・アイゼンガ
- ・ マサチューセッツ大学、デービッド・ライザック博士
- ・ シカゴ警察署刑事スコット・キーナン

その他につぎの資料を採用した。

- ・ 州司法研究所の助成金により（アメリカ女性裁判官協会の協力を得て、NOW法的防衛及び教育基金の企画である）「司法における男性と女性の公平を促進するためのアメリカ裁判官教育プログラム」が作成した「性暴力を理解する：知らない人と知り合いによる強姦及び性暴力に対する司法の対応」
- ・ 警察官の基準及び研修委員会ならびに女性に対する暴力をストップするための助成金により、コネチカット州性暴力救援サービス・インクが作成した、シャロン・M・ハンター、ボニー・R・ベントレー・クリュー及びジェイミー・L・ミルズ著、「性暴力犯罪に対する警察の対応：研修カリキュラム」
- ・ イリノイ州警察官研修及び基準委員会及び性暴力に反対するイリノイ州協議会が作成した「イリノイ州警察のモデル・ガイドライン及び犯罪捜査マニュアル」
- ・ 米国司法省の司法援助局の助成金により、「コロラド州における女性に対する暴力を止めさせる」が作成した「性暴力と配偶者間暴力に対するコミュニティの協力的対応を開発する」
- ・ 女性に対する暴力をストップするための助成金から技術的協力を得て作成された、メアリー・B・メイルフィット、クリスティン・M・リトル及びアレクサンドラ・H・ウォーカー著、「有望な実務：女性に対する暴力に対する刑事司法制度の改善」
- ・ 警察官の基準と研修に関するカリフォルニア州委員会により作成された「性暴力捜査：遠隔地で学ぶための参照ガイド」(著作権、1995年)
- ・ 警察官の基準と研修に関するカリフォルニア州委員会により作成された「犯罪者の人格を見分ける：遠隔地で学ぶための教材」(著作権、1995年)

¹ 訳者注：女性に対する暴力局（Office on Violence Against Women）は、米国連邦司法省の部局で、1995年の活動開始当初から、女性に対する暴力に関する司法省の法的問題及び方針に関する案件を担当している。

「女性と治安維持に関する国民センター」は、これらの個人と組織の協力を感謝をこめて認めるものである。

レイチェル・D・バーガー、女性と警察に関する国民センター、企画アソシエイト

性暴力加害者のダイナミクス（力学）

ほとんどの人は、性暴力の加害者はある一定の外見と行動様式を有するものだと考えていて、仮に質問をされたなら、つぎのように答えるであろう。

その男は意地悪そうな顔つきをしていて、何か武器を持っている。彼は、まるで捕食者のように被害者のことを語り、公園や夜道で女性を襲ったり、女性の家に押し入ったりする。彼らは、女性を身体的に痛めつけ、精神的に傷つける。

これは、多くの人が恐怖を抱いていることについての説得力ある描写である。しかし、ステレオタイプの強姦者の描写でもある。しかし、ほとんどの場合、これは間違っている。

すべての強姦者の行為はひどいものであるが、彼らがテッド・バンディーやジェフリー・ドーマーより意地の悪い外見をしているとは限らない。ダイナミクスの授業で議論したとおり、ほとんどの強姦者は武器を持っていない。ほとんどの強姦者は、夜道や公園で忍び寄りたりしないし、家に押し入ったりもしない。そのうえ、ほとんどの強姦者は、被害者に身体的な跡をほとんど残さない。上記の描写の中で唯一正しい陳述は、被害者が精神的に傷つくというものだけである。強姦による精神的苦痛は一生続くこともある。

真 実

強姦者についての真実は、彼が「普通の人」に見えるということである。彼は、医師、弁護士、会社の重役、大学のスポーツ選手、普通の女性を助けてあげようとする「よい人」、友人の家で知り合ったハンサムな男性、まだアパートの鍵を返さない元恋人、のいずれでもありうる。

ではなぜ、強姦者についての誤ったステレオタイプがまだ存在しているのか？

強姦者のステレオタイプが真実からほど遠いものであるとすれば、わたしたちの社会でそれが広く、かつ、執拗に信じられているのはなぜなのか。

- ・ 理由の一つは、ステレオタイプは多くの人に安心感を与えるからである。もし、外見で強姦者を見分けられるとすれば、そして、夜道を避けたり、ドアに二重鍵を取り付けるなどして強姦を避けることができるとしたら、安心感を得ることができる。仮にそれが、幻想の安心であったとしても。
- ・ 誤ったステレオタイプが執拗に存在するもう一つの理由は、それが人々を恐怖に陥れ、マスコミや人々を夢中にさせた有名な連続強姦事件の犯人像に基づくものだからである。

逮捕されたり、検挙されたりした強姦者に関する過去何十年間にもわたる調査がこのステレオタイプを強めてきた。何年にもわたり、社会科学の研究者は、検挙された強姦者について研究し、

発見したことを発表してきた。これらの強姦者の多くはひどく暴力的で、その多くは武器を使い、見知らぬ女性を襲った。しかし、暴力的で武器を用いたという特徴があったからこそ、これらの強姦者が検挙されたという事実は見過ごされた。強姦事件の大部分を構成する事件の加害者は、もっと賢く被害者を選択し(彼らは「知り合い」を襲う) 怒りを抑制することができるのである。その結果、被害者がこれらの強姦者を通報することはほとんどないし、仮に通報されても訴追されることはほとんどなく、仮に訴追されても、有罪になることはほとんどないのである。そして、その結果、かれらについて社会学者が研究することはほとんど皆無なのである。

発見されない性暴力加害者についての研究

強姦者や性暴力の加害者についての真実が顕われるようになったのは、わずか過去20年間のことである。被害者に関する調査により、わずか10%ほどしか通報されず、80%が、パーティーやバーで知り合った男性、夜、家に送ってくれた男性、デートしたことがある男性など、何らかの形で知っている男性から強姦されていたのである。これらの調査が、それまであたかも刑事司法のレーダーから発見されることなく飛んでいたともいえる、「発見されない」強姦者を研究することを、社会学者たちに促した。

あたらしい調査方法を利用することによって、これらの加害者である、大部分の性暴力事件の起こしている男たちについてより多くのことが判ってきた。下記に示す調査による発見の要旨は、「典型的な」性暴力加害者の肖像としては、前述のステレオタイプより、はるかに正確なものである。

事前の計画性

知り合いの女性を襲う性暴力の加害者は、「デート・レイピスト」という誤った呼称で呼ばれることがある。これには、男性と女性がデートをし、セックスをして、そして「どういうわけか行き過ぎてしまう」というような意味がこめられていることがある。しかし、これらの加害者は、非常に細部にわたり、そしてずる賢く、性暴力を事前に計画しているのが典型的なのである。

これらの強姦者は、典型的に、被害者と部屋や車の中やその他の隔絶された場所で二人きりになるようにして、被害者を弱い立場に追い込む。被害者に飲酒を強いたり、「デート・レイプ薬」と呼ばれる薬物を強いることも多くなっているが、そうやって被害者を抗拒不能にしたりする。

これらの暴力が事前に計画されたものであることをもっとも明確に示すのは、これらが繰り返される傾向があるという事実である。最近の調査によれば、検挙された強姦者と同様に、発見されない強姦者も多くの領域で暴力を使う常習的加害者だということだ。

- ・ 未検挙の強姦者122人は、386件の強姦、20件のその他の性暴力、264件の親密なパートナーに対する暴力を行ったと認めた。

- ・ この122人の強姦者は、365件の子どもに対する性的虐待と91件の子どもに対する身体的虐待を行ったと認めた。

手段としての暴力

「発見されない」性暴力の加害者の特徴のうちで顕著なのは、被害者を怖がらせて、言うことを聞かせるのに必要な限度でしか暴力を振るわないことである。彼らは、口頭の脅しを使ったり、単に身体的に危害を加えるという脅しよりももっと洗練された方法を使う。たとえば、彼らは被害者に対し、「君は酔っているから、誰も君の言うことなんか信じないよ。」とか、「誰かに言っても、自分の評判を下げるだけだよ。」などと言う。これらの加害者は、通常は、被害者を押さえつけて、怖がらせて言いなりにさせるために必要な分だけ、自分の体重をかけたり、腕を押さえるなどして、脅しや暴力の程度を強めていく。

飲酒の利用

性暴力において、酒は非常によく使われる要素であり、加害者と被害者の両方が飲酒することがしばしばである。多くの強姦者が、自分の理性を解放するためと、被害者を弱めるために酒を利用する。飲酒により被害者の意識が薄れたとき、またはまったく無意識になったときに強姦が行われることも多い。

性行為

発見されない強姦者の性的活動が通常の男性より性的活動が頻繁であるという点においては、調査結果は一致している。性的に暴力的な行動以外に、彼らは、同年代の一般的な男性よりも、より多くの同意ある性交及び同意のない性交を行っている。この性行動が彼らの自我の重要な構成部分となっている傾向がある。したがって、彼らの性的活動が頻繁なのは、性衝動が強いからではなく、性的に非常に活動的でなければ成功者ではなく、かつ、男として十分ではないと彼らが考えるからなのである。

態度と考え方

性的に暴力的な行動は、女性を自己満足のために征服し、強要し、利用する対象と見る考え方の一部である。発見されない強姦者は、社会における女性と男性の適切な行動についてのステレオタイプ的な考え方を信じ、その考え方に頑なに固執している可能性が高い。自分たちの暴力的な行動を正当化し、助長する「強姦神話」に固執する。強姦神話と硬直化したステレオタイプに固執することは、被害者の行動に対する彼らの認識を歪んだものにする。例えば、彼らは、「女性は本当はしたいのに、セックスに対して『NO』というものだ」と自分自身に言い聞かせることによって、被害者が明らかに怖がって拒否しているのを無視できるようになる。

根底にある動機

発見されない強姦者が、根底に女性に対する怒りと敵意という感情を有していることが繰り返し発見されている。彼らは、すぐに女性に冷淡にされたと感じ、女性に対して恨みを持つ。この根底にある敵対心は容易に刺激され、女性というのは男性を「からかい」、「心の中では」性行為を強要されたいと望んでいるか、そうされる「べきである」というふうに、彼らの認識を歪曲させる。これらの男性は、女性を支配し、コントロールしなければならない強い必要性を感じ、女性に支配されることを特に恐れていることが、繰り返し発見されている。この特徴は、性的関係とは「征服」であり、すべての女性は征服の対象であるという考え方につながる。非暴力的な男性に比べて、強姦者が感情的により緊縮的であることが判っているが、これは、彼らの持つ男女の役割についての非常にステレオタイプの考え方と合致する。彼らは自分たちが経験した感情を描写することが不得意であり、感情表現が苦手である。その結果、彼らは他者の感情経験を理由付ける能力が低く、そのため、非暴力的な男性と比べて他者に共感することも少ない。

性暴力的な下位文化

「発見されない」性的に暴力的な男性に関する調査結果は、これらの暴力が直接的、間接的に「性的に暴力的な下位文化」と呼ばれるものに由来していることについては、一致している。これらの下位文化はフラタニティー（大学の男子学生の同好会）や、不良ギャングを含むものである。これらの下位文化は、女性や性的征服についての強姦者の考え方を反映するものであり、それらを形成するものでもある。例えば、暴力的ポルノを娯楽として見るフラタニティーもあり、それにより強姦は容認され、犯罪ではなく、男性の活力のシンボルであるという明らかなイメージが提供される。これらの下位文化の中では、「性的征服」できるだけ多くの女性と性行為をすることが、男性が自分や互いを見るとき重要な指標となる。その征服の数が多ければ多いほど、彼はより男性的ということになる。これらの征服のための強要や暴力は下位文化の中では普通のことで、単に男性の「性的武器庫」の一部にすぎないとされる。

超男性性

彼らの持つ男女の役割についての非常にステレオタイプの考え方と合致して、発見されない強姦者は、非常にジェンダー的な自己認識を持っている。つまり、彼らは自分を超男性的だと考え、頑なに、かつ、ステレオタイプの男性的であろうと常に努力する。彼らは自分の男性的自己認識を軽んじられることに常に敏感で、自分の男性性に疑問を投げるようなどんな状況にも強い不安を感じる。このような深い信念が、上述した性的に暴力的な下位文化と合わさるとき、危険が生まれる。常に性的征服をしようとする態度の根底にある「力」の動機が、強姦者の根底にある女性に対する敵意と超男性的な自己認識と混ざるのである。女性が強制的な性的圧力を拒否すると、彼はこれを彼の男性性に対する挑戦であり、侮辱であると認識して、彼が一人前であるという感覚を取り戻すための行動である怒りと暴力をもって反応するのである。

成長期の逸話

刑務施設にいる強姦者についての伝統的な見方が、彼らが母親に対し深い怒りを抱いているというものであるのに対し、発見されない強姦者は、父親に対する怒りと失望がより顕著であるという証拠がある。これらの男性の中には、父親との傷ついた関係が、彼らに自分は超男性的でなければならぬと感じさせたり、頑なにステレオタイプの考え方や行動をさせている者がいる。その他の成長過程における要素は、子どもの性的虐待と関連している。発見されない強姦者における子どもへの虐待、特に子どもへの身体的虐待を受けた割合は、非暴力的な男性と比べると非常に高い。

警察捜査における意味

これらの発見されない強姦者を特徴づける唯一のプロファイル、あるいは一群のプロファイルというのが存在しないことは明らかである。実際、調査によれば、その正反対である。彼らはすべての人種や民族のグループ、すべての職業及びすべての社会経済的グループに存在する。しかし、これらの性暴力の加害者は、見知らぬ人を襲う性暴力の加害者とは、重要な点で異なっている。例えば、

- ・ 発見されない性暴力加害者のほとんどが、1度も警察官に見つかることなく、複数回の性暴力を行っている。
- ・ これらの加害者のほとんどが、非常にスムーズなマナーを持っている。心理的に相当洗練された者もいる。
- ・ 仮に告訴された場合、彼らは話の焦点を素早く、かつ、円滑に被害者の行動に移して、彼女の信頼性を巧妙に傷つけ、不可避的に使われる「合意」の抗弁のための基礎を築くであろう。
- ・ このため、被害者の貞操のなさ、薬物使用または従前の「虚偽」告訴の話を出すことが予測される。

検挙された性暴力加害者についての研究

性暴力の加害者を特定し、検挙し、面接するために、検挙されたり、施設内処遇を受けている性暴力加害者の研究を参考にすることが有用であると多くの研究者が言っている。実際、性暴力犯罪をよりよく理解し、強姦者と関連する社会的ステレオタイプを払い去るために非常に役立つ。例えば、つぎの統計は発見された性暴力の加害者に関する現在の知見を表したものである。

- ・ 一生の間に複数回の強姦を犯す。調査によれば、性暴力の加害者の多くは再犯の傾向を継続する。
- ・ 施設ない処遇を受けている性暴力の加害者の50%が、子どもへの性的またはその他の身体的虐待を受けている（ただし、虐待を受けた子どもの多くが虐待的でない大人に育つ）。
- ・ 連邦のさまざまな統計資料が、これらの強姦者の特徴について驚くべき一致度を示す。それ

らは、100人中99人が男性で、10人中6人が白人で、平均年齢が30代の前半というものである。

- ・ 州刑務所に収容されている強姦者及び性暴力の加害者は、他の暴力犯より暴力的犯罪で有罪になった前歴があることが少ない。しかし、性暴力的な犯罪で有罪になった前歴がある割合はより多い。
- ・ 性暴力の加害者はその他の暴力犯罪の加害者に比べて、その犯罪で武器を使用している割合が少ない。しかし、ナイフの使用については、性暴力の加害者は他の暴力犯罪の加害者同様に暴力的である。
- ・ 強姦者の30%及びその他の性暴力の加害者の15%が、被害者は彼らにとって知らない人だったと報告した。有罪になった性暴力の加害者の25%が、被害者は子どもか養子であると報告した。

施設内処遇を受けている強姦者でさえ、その他の暴力犯罪の加害者より、見知らぬ人を襲ったり、武器を使用したり、従前に有罪になったりする割合が低い事実は、これらの特徴の多くが「本当の強姦」²のステレオタイプとは明らかに異なることを示している。しかし、ナイフの使用などその他の特徴は、施設内処遇を受けている性暴力の加害者が発見されない性暴力の加害者と比べて、より「本当の強姦」らしい犯罪を犯したことを示している。換言すると、行為がより「本当の強姦」に似ているほど（例えば、知らない人に襲われたり、武器を使ったりなど）、行為者が有罪になる可能性が高いということだ。

（以下、訳省略）

² 訳者注： スーザン・エルトリッチが著書「リアル・レイプ」（1987年）の中で、見知らぬ男性に夜道でいきなり襲われるといった種類の強姦をこう呼んだ。